

令和6年度

# 全国学力・学習状況調査

恵那市の状況



恵那市教育研究所

# 恵那市における小学校国語の結果分析

恵那市教育研究所

## 調査結果

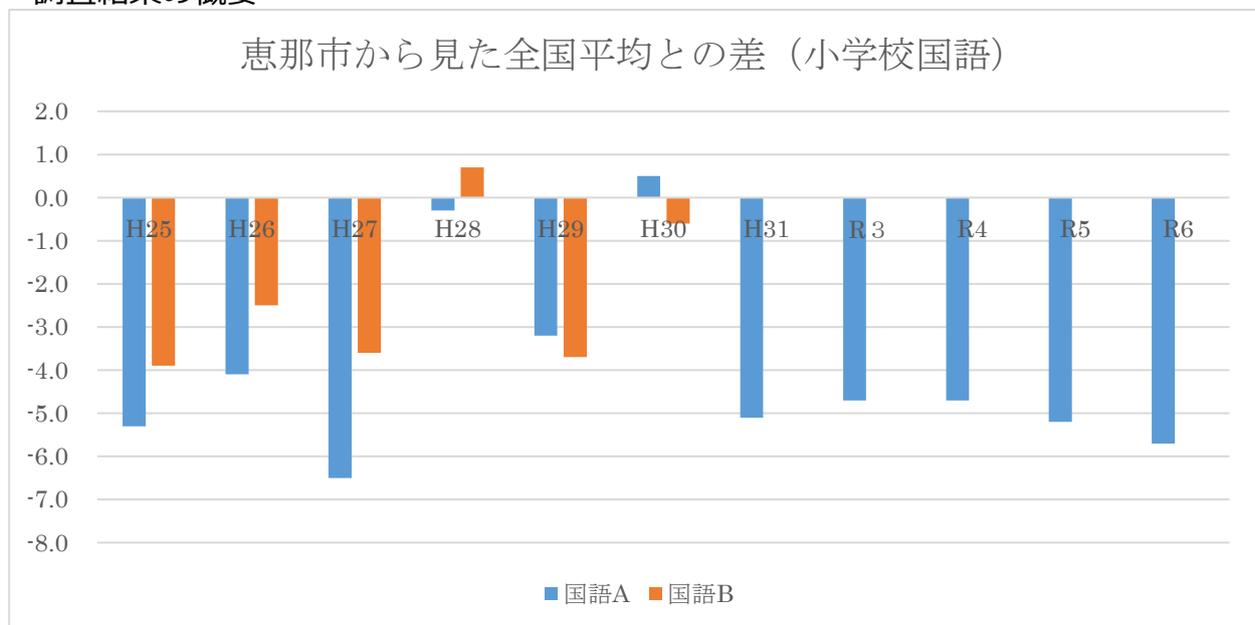
### 平均正答率

- 恵那市 62%
- 県 65%
- 全国 67.7%【恵那市から見た国との差 -5.7】

### 集計結果

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)					
			貴教育委員会	岐阜県(公立)	全国(公立)	県差	国差	
全体		14	62	65	67.7	▲ 3.0	▲ 5.7	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	54.3	60.2	64.4	▲ 5.9	▲ 10.1
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	84.1	85.9	86.9	▲ 1.8	▲ 2.8
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	70.1	72.0	74.6	▲ 1.9	▲ 4.5
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	56.3	57.3	59.8	▲ 1.0	▲ 3.5
		B 書くこと	2	61.3	66.6	68.4	▲ 5.3	▲ 7.1
		C 読むこと	3	67.8	69.2	70.7	▲ 1.4	▲ 2.9
評価の観点	知識・技能	6	61.9	66.5	69.8	▲ 4.6	▲ 7.9	
	思考・判断・表現	8	61.9	64.1	66.0	▲ 2.2	▲ 4.1	
	主体的に学習に取り組む態度	0						
問題形式	選択式	10	66.0	67.8	69.9	▲ 1.8	▲ 3.9	
	短答式	2	44.9	54.6	59.7	▲ 9.7	▲ 14.8	
	記述式	2	58.2	62.2	64.6	▲ 4.0	▲ 6.4	

### 調査結果の概要



県及び全国との平均正答率を比較すると、県からは3ポイント、全国からは5.7ポイント下回っています。

学習指導要領の内容別では特に、「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」や、「思考力、判断力、表現力等」の「B 書くこと」において課題が見られました。

## 指導改善のポイント

### ■ 課題の見られた問題について

#### 課題の見られた問題の概要

知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

2三 恵那市の  
平均正答率 ア **27.4%** (全国：43.4%) イ **62.4%** (全国：76.0%)  
ア, イ

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる

☞設問の詳細はこちらでご確認ください。

[https://www.nier.go.jp/24chousa/pdf/24mondai\\_shou\\_kokugo.pdf](https://www.nier.go.jp/24chousa/pdf/24mondai_shou_kokugo.pdf)

### ■ 解答の傾向について

2三は、傍線部を漢字を使って書き直す問題です。設問アは「きょうぎ（競技）」という漢字を書く問題ですが、本市の正答率は27.4%で、全国平均を16ポイント下回っています。同様に設問イは「な（投）げる」を書く問題で正答率は62.4%であり、全国平均を13.6ポイント下回っています。

学習した漢字を正しく書くというところに大きな課題があることが分かります。

### ■ 学習指導に当たって

#### 『学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う』

漢字を学習する際には、成り立ちや意味を考え、理解しながら学習すると、漢字の習熟に役立ちます。また、熟語として使われるときに、どのように使われるかを考えながら覚えることも大切です。

さらに、生活ノートや授業のまとめなど、一定の分量の文章を継続して書く機会でも、学習した漢字を用いて書く習慣を身に付けると、漢字を忘れにくくなります。

昨今、一人一台端末が導入されたことにより、これまで紙のノートに手書きで書いていたものをタブレットに入力する形でまとめる機会も増えました。紙のノートに書く機会が減りつつある今だからこそ、手書きをする機会を精選したり、手書きとタブレットでの練習を組み合わせたりして、反復練習する機会を確保することも必要です。

漢字の成り立ちを理解しながら書くと、覚えやすいね。  
熟語にした時にどう使うかを知ると、どういうときに使うかが分かりやすいね。



習った漢字は、授業でまとめを書くときや、生活ノートを書く時にも、面倒がらずに使うことで、漢字を使う習慣が身に付くね。

■ 課題の見られた問題について

課題の見られた問題の概要

思考力, 判断力, 表現力等 B 書くこと

2二 恵那市の平均正答率 **45.8%** (全国: 56.6%)

目的や意図に応じて, 事実と感想, 意見とを区別して書くなど, 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる

☞設問の詳細はこちらでご確認ください。

[https://www.nier.go.jp/24chousa/pdf/24mondai\\_shou\\_kokugo.pdf](https://www.nier.go.jp/24chousa/pdf/24mondai_shou_kokugo.pdf)

■ 解答の傾向について

問題形式が記述式で正答率が45.8%である2二は, 全国平均との差が10.8ポイント, 県平均との差が8.1ポイントです。今回の調査問題の中で, 漢字の書き取りを除いて本市において最も正答率が低い問題です。

【高山さんの文章】の□部分に, 【高山さんの取材メモ】をもとにして考えた「たてわり遊び」のよさを書く問題です。条件の中に「『たてわり遊び』のよさについて考えたことを書くこと。」「【高山さんの取材メモ】の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと。」とあり, どちらの条件も満たさなければなりません。誤答の類型にある通り, 「下級生に聞いたこと」のみ書き, 自分で考えた「『たてわり遊び』のよさ」が書かれていない誤答(解答類型4)が41.0%に上りました。学習指導要領の指導事項である「事実と感想, 意見とを区別して書」いたりする力が問われています。

問題番号	問題の概要	解答類型											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9 9	無解答		
2二	【高山さんの文章】の空欄に入る内容を, 【高山さんの取材メモ】を基にして書く	市	45.8	0.7	0.0	41.0						4.2	8.2
		県	53.9	0.9	0.7	34.6						3.8	6.1
		全国	56.6	0.8	0.9	33.0						3.8	4.9

(正答の条件)

次の条件を満たして解答している。

- ① 「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書いている。
- ② 【高山さんの取材メモ】の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書いている。
- ③ 60字以上, 100字以内で書いている。

1 ◎	条件①, ②, ③を満たしているもの
2	条件①, ②は満たしているが, 条件③は満たしていないもの
3	条件①は満たしているが, 条件②は満たしていないもの

	*条件③を満たしているかどうかは不問とする。
4	条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。
99	上記以外のもの
0	無回答

## ■ 学習指導に当たって

### 『目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書く』

「事実と感想、意見とを区別して書」くとは、事実を客観的に書くこととともに、その事実と感想や意見との関係を捉えながら区別をして書くことです。今回の設問では、【高山さんの取材メモ】に、「たてわり遊び」について高山さんが取材をした「事実」が書かれており、それをもとにして「考え」た「たてわり遊び」のよさを書きます。「事実」と、そこから導いた自分の「考え」を分けて書くことが条件となっています。

指導に当たっては、自分の意見を表す文章を書く活動が考えられます。自分の意見を表す文章には、客観的な事実と、そこから導き出した自分の考えを書いていきます。事実に裏付けられた自分の考えを書く学習を行うことで、「事実と感想、意見とを区別して書」く力が身に付いていくと考えられます。

自分の意見を書く文章の中で、自分の意見と、その根拠となる事実とを区別して書く学習を行いましょ。自分の意見が客観的な事象に裏付けられたものになっているかどうかを振り返って、自分の考えをより深めることにつながっていきますよ。



# 恵那市における小学校算数の結果分析

恵那市教育研究所

## 調査結果

### 平均正答率

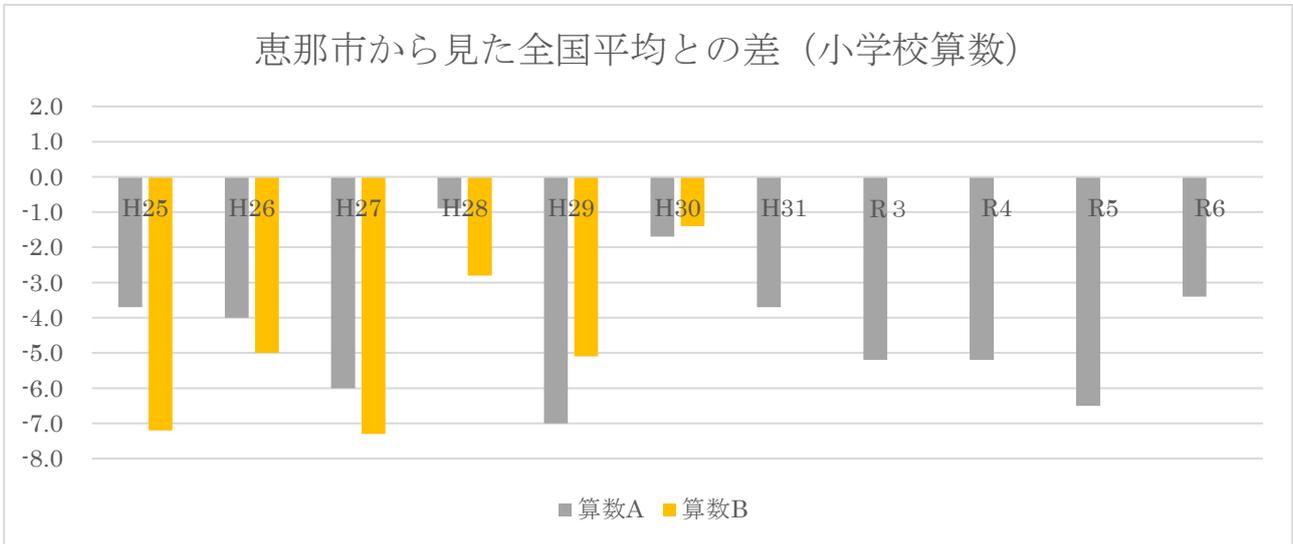
- 恵那市 60%
- 県 61%
- 全国 63.4%【恵那市から見た国との差 -3.4】

### 集計結果

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			県差	国差
			貴教育委員会	岐阜県(公立)	全国(公立)		
	全体	18	60	61	63.4	▲1.0	▲3.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	61.1	63.1	68.0	▲2.0	▲4.9
	B 図形	4	63.9	64.8	68.3	▲0.9	▲2.4
	C 測定	0					
	C 変化と関係	3	47.8	49.4	51.7	▲1.8	▲3.9
	D データの活用	4	61.3	61.0	61.8	0.3	▲0.5
評価の観点	知識・技能	9	70.0	70.4	72.8	▲0.4	▲2.8
	思考・判断・表現	7	48.0	49.9	51.4	▲1.9	▲3.4
	主体的に学習に取り組む態度	0					
問題形式	選択式	5	70.8	72.5	75.3	▲1.7	▲4.5
	短答式	7	60.0	60.0	62.0	0.0	▲2.0
	記述式	4	47.9	50.1	51.0	▲2.2	▲3.1

(注)「学習指導要領の領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。

### 調査結果の概要



算数において恵那市では、調査開始以来、県及び全国の平均正答率を下回る結果が続いていますが、今年度は算数Aのみになった平成31年度以降では差が最も小さくなっています。

学習指導要領の領域別に見ると、全国の平均正答率と最も開きがあったのが「A 数と計算」となり、最も正答率が低かったのが「C 変化と関係」になります。また、短答式に比べ、選択式や記述式の問題の正答率が低くなっています。

## 指導改善のポイント

### ■ 課題の見られた問題について

#### 課題の見られた問題の概要

2(1) 恵那市の平均正答率 **46.8%** (全国：57.7%) A 数と計算 思考・判断・表現

除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる問題。

トラック 1 台で、350kg 運ぶことができます。まず、あやのさんたちは、このトラック 2 台では、何 kg の米を運ぶことができるかについて考えました。 $350 \times 2 = 700$  で、700kg の米を運ぶことができます。次に、このトラック 16 台では、何 kg の米を運ぶことができるかについて考えています。 $350 \times 2 = 700$  を基にして、 $350 \times 16$  の積は、どのように求めることができるか。どのように求めたかがわかるように言葉や式を使って書きましょう。

☞ 設問の詳細はこちらでご確認ください。

[https://www.nier.go.jp/24chousa/pdf/24mondai\\_shou\\_sansuu.pdf](https://www.nier.go.jp/24chousa/pdf/24mondai_shou_sansuu.pdf)

問題番号	求め方	答え	正答	恵那市	県	全国
2 (1)	1 ① ②の全てを書いている	5600 と解答しているもの	◎	46.8	54.3	56.9
	2 ① を書いている			8.5	9.1	9.5
	3 ② を書いている			7.2	5.2	4.6
	4 $350 \times 16$ を書いているもの			5.5	3.5	3.8
	5 類型 1 から類型 4 以外の解答		7.5	7.0	6.0	
	6 ① ②の全てを書いている	5600 以外と解答しているもの 無解答		3.5	3.8	3.5
	7 ① を書いている			4.5	3.5	3.3
	8 ② を書いている			0.2	0.8	0.7
	9 $350 \times 16$ を書いているもの			4.0	2.8	2.8
99 上記以外の解答			8.0	6.1	5.4	
0 無回答			4.5	4.2	3.4	

(正答の条件)

次の①、②の全てを書き、①を5600と書いている。

① 16 が 2 の 8 倍であることを表している式や言葉

② 700 の 8 倍になることを用いて、 $350 \times 16$  の積①を求める式や言葉

### ■ 解答の傾向について

「A 数と計算」領域の記述式で解答する問題の中で、正答率が 46.8%である2(1)は、全国平均との差が 10.1 ポイント、県平均との差が 7.5 ポイントで、本市と全国との平均の差が最も大きい問題です。

図を基に計算の仕方を説明している文章の空欄にあてはまる数値や、その数値を求めた理由を説明する問題です。答えや計算の仕方を説明するのではなく、16 が 2 の 8 倍であることを基にして、式や言葉を使って答えの求め方を説明する必要があります。誤答として、答えを求める式「 $350 \times 16$ 」を答えているものが多くありました。これらの誤答は、数字のみに着目して問題場面を正しく理解せずに解答したり、問題の意図を正しく理解できずに答えていたりすることが考えられます。

■ 学習指導に当たって

文章問題から分かっている数や聞かれていることにだけ着目するのではなく、具体物や半具体物を利用して、数と数との関係について考えながら式に表すことが大切です。

また、「計算のしかたをくふうしよう」の単元など、計算の仕方を工夫する学習において、答えを求めることや、簡単に計算できることを確認するだけでなく、なぜそのような工夫ができるのか、根拠を明確にして説明する活動を位置付けることで必要な力が付いていきます。

指導改善のポイント

■ 課題の見られた問題について

課題の見られた問題の概要

4(3) 恵那市の平均正答率 **26.3%** (全国：32.0%) C 変化と関係 思考・判断・表現

家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いのかを判断し、そのわけを書く。

家から学校までの道のりは、上の図の通りです。(どちらも 1200m)

家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。それぞれ家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

1 かなたさん      2 ほのかさん

問題番号	求め方	答え	正答	恵那市	県	全国
4 (3)	1 Aが書いている	1と 解答	◎	21.6	20.0	19.8
	2 道のりが等しい言葉がある		28.9	30.8	30.8	
	3 時間が短いことを表す言葉がある		3.0	2.1	2.6	
	4 Aについて書かれているが不足がある		2.7	2.8	3.5	
	5 Bが書かれている		◎	4.7	8.7	11.2
	6 かなたさんの歩く速さを表している		0.0	0.2	0.2	
	7 ほのかさんの歩く速さを表している		0.7	0.6	0.7	
	8 Bについて書かれているが不足がある		0.5	0.4	0.4	
	9 道の形状について書かれている		2.2	1.4	1.3	
	10 類型1から類型9以外の解答		8.0	7.4	7.1	
	11 20 上記1～10の合計	2と 解答		25.1	21.3	19.3
99 上記以外の解答			0.2	1.2	0.9	
0 無回答			2.7	3.1	2.4	

(正答の条件)

番号を1と選び、A、Bについて書かれている

A 道のりが等しいことと、かかった時間を基に、わけを書いている。

B かなたさんとほのかさんのそれぞれの歩く速さを基に、わけを書いている。

■ 解答の傾向について

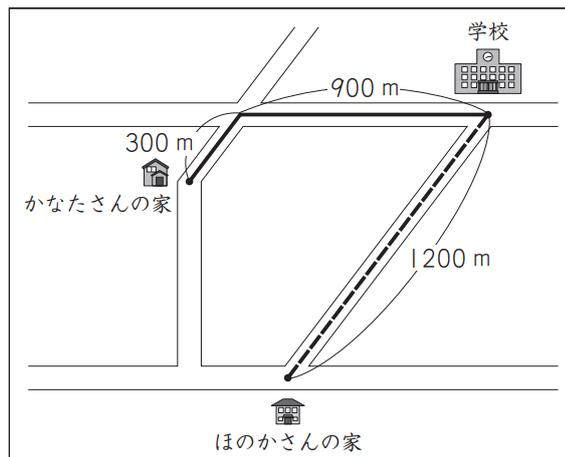
「C 変化と関係」領域の記述式で解答する問題の中で、正答率が26.3%である4(3)

は、全国平均との差が 5.7 ポイント、県平均との差が 2.4 ポイントで、今回の調査の中で最も正答率が低い問題です。

誤答として、ほのかさんの方が速いと解答しているものが 25.1%、道のりが等しいことは書かれているがかかった時間についての記述がないものが 28.9%でした。また、正答者のうち「正答の条件 B」の回答が 4.7%と、全国平均と比べて 6.5 ポイント、県平均と比べて 4.0 ポイント低くなっています。このような結果から誤答の要因として、与えられた条件から距離が等しいことを求めたり、速さを直接比較したりすることはできるが、距離と時間の 2 つの数量を基にして間接的に速さを比べたり、速さに変換して比べる方法が正しく理解できていないといえます。

### ■ 学習指導に当たって

速さ、道のり、時間の数量の関係の理解を深めるためにも、毎時間、問題場面を数直線図で整理し、前時までの数直線と比較する場面を位置付けることで、速さ、道のり、時間の関係について理解を深めることができます。また、本問題のように生活場面を扱った問題では、児童の経験から「歩く道のりが等しい場合はかかった時間が短い方が速い」ことを予想して追究し、「道のり÷時間の計算を用いて速さを比べた場合と結論が同じ」になることを確認することで、算数の学習と日常生活をつなげて理解することができ、理解を深めることができます。



(問題) かなたさんは 20 分、ほのかさんは 24 分かかっているよ。どちらの方が速いのかな？

ほのかさんは 1200m だけど、かなたさんの距離は何mになるのかな？

道が曲がっていても距離は足し算で求めることができるから 2 人の距離は等しくなるね。

距離が等しいということは、かかった時間が短い方が速いってことだよ

速さは「距離÷時間」で求められたから、確かめてみようか。



# 恵那市における中学校国語の結果分析

恵那市教育研究所

## 調査結果

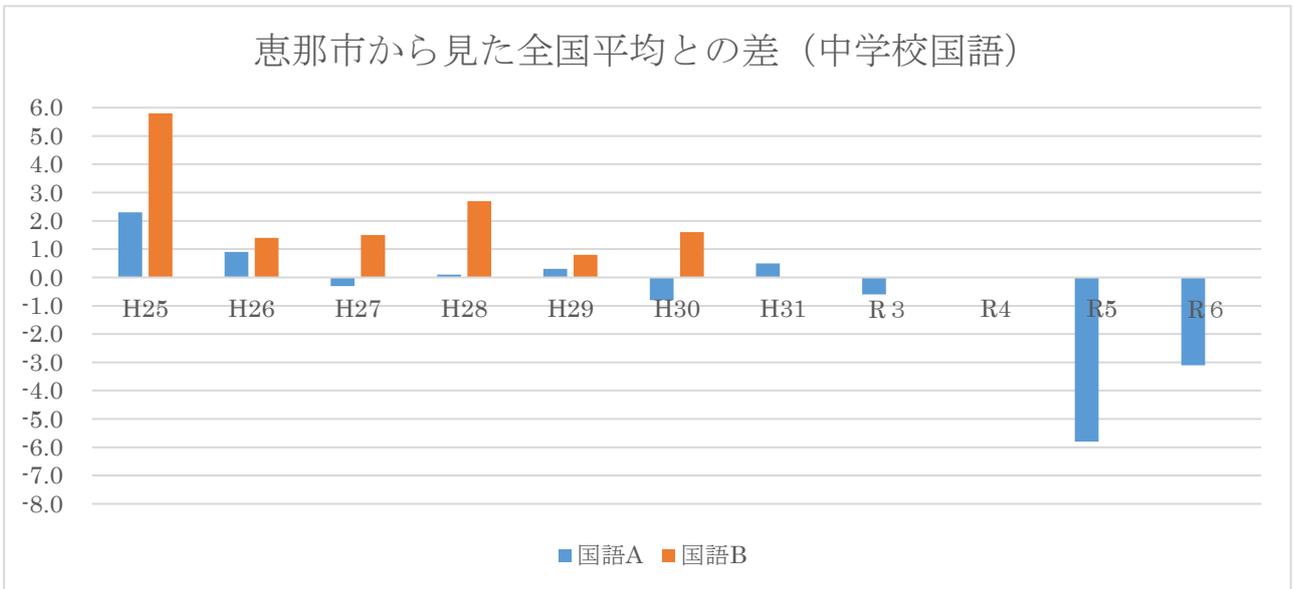
### 平均正答率

- 恵那市 55%
- 県 60%
- 全国 58.1%【恵那市から見た国との差 -3.1】

### 集計結果

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)					
			書教育委員会	岐阜県(公立)	全国(公立)	県差	国差	
全体		15	55	60	58.1	▲ 5.0	▲ 3.1	
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	3	53.5	59.3	59.2	▲ 5.8	▲ 5.7
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	59.2	60.5	59.6	▲ 1.3	▲ 0.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	75.8	77.2	75.8	▲ 1.4	0.2
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	53.3	61.2	58.8	▲ 7.9	▲ 5.5
		B 書くこと	2	64.6	68.1	65.3	▲ 3.5	▲ 0.7
		C 読むこと	4	44.5	49.8	47.9	▲ 5.3	▲ 3.4
評価の観点	知識・技能	6	59.1	62.6	62.0	▲ 3.5	▲ 2.8	
	思考・判断・表現	9	51.9	57.7	55.4	▲ 5.8	▲ 3.5	
	主体的に学習に取り組む態度	0						
問題形式	選択式	9	58.2	62.1	61.0	▲ 3.9	▲ 2.8	
	短答式	3	55.9	61.5	61.8	▲ 5.8	▲ 5.9	
	記述式	3	43.3	50.5	45.5	▲ 7.2	▲ 2.2	

### 調査結果の概要



平均正答率の差を見ると、県との差はマイナス5ポイントで、全国との差はマイナス3.1ポイントであり、全国、県の平均正答率を下回る結果となりました。

学習指導要領の領域別、評価の観点別に見ると、「知識及び技能」の「言語の特徴や使い方に関する事項」、「思考力、表現力、判断力等」の「話すこと・聞くこと」において全国、県との差が大きくなっています。

## 指導改善のポイント

### ■ 課題の見られた問題について

#### 課題の見られた問題の概要

1- 恵那市の平均正答率 **52.9%** (全国：63.2%) 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

必要に応じて質問しながら話の内容をとらえることができるかどうかをみる問題。

☞設問の詳細はこちらでご確認ください。

[https://www.nier.go.jp/24chousa/pdf/24mondai\\_chuu\\_kokugo.pdf](https://www.nier.go.jp/24chousa/pdf/24mondai_chuu_kokugo.pdf)

問題番号	解答類型	正答	恵那市	県	全国
1	1 1 と解答しているもの	◎	52.9	62.9	63.2
	2 2 と解答しているもの		4.1	3.6	4.1
	3 3 と解答しているもの		36.9	28.8	28.2
	4 4 と解答しているもの		5.9	3.6	4.0
	99 上記以外の解答		0.0	0.1	0.1
	0 無解答			0.3	0.9

### ■ 解答の傾向について

【フィルターバブル現象の資料】をもとに、グループで話し合いをしている場面で、藤田さんの「でも、他の本の情報に触れにくくなっているとは感じませんでしたか」という発言が、どのような意味のある発言であったかを考える問題です。話し合いの中で「必要に応じて質問しながら話の内容を捉える」という趣旨で出題をされています。今回の中学校国語の問題の中で、全国、県の平均正答率との差が最も大きかった設問です。

選択肢1の「藤田さんの経験が、【フィルターバブル現象の資料】の内容に当てはまるかどうかを確認しようとしている」が正答ですが、誤答として最も多かったのが、選択肢3の「藤田さんの経験をもとに【フィルターバブル現象】の内容に反対する意見を述べようとしている。」でした。話し合いの文脈の中での今井さんの発言の意図が捉えられなかったことや、今井さんの発言が「でも」で始まることから逆説と捉えて「反対の意見」と解釈してしまったことなどが、誤答の原因と考えられます。

### ■ 学習指導に当たって

#### 『必要に応じて質問しながら話の内容を捉える』

話し合いをする中で、分からないことや知りたいこと、確かめたいことなどがある時、必要に応じて話し手に質問をすることで、話の内容を正確に捉えることができます。その際には、その場の状況に応じて質問の適切な機会を捉えることや、話し手が伝えたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりするなど、知りたい情報に合わせて効果的に質問をすることが重要です。

指導に当たっては、少人数での話し合いをする活動を行うことが考えられます。少人数での話し合いは、多人数の場合に比べて一人一人の参加者が発言する機会が多くなると

もに、話し手と聞き手との距離が近いために、適宜質問もしやすくなります。また、話し合いの目的や進め方なども共有しやすくなります。少人数での話し合いで、お互いに自分の意見を主張し合うだけでなく、必要に応じて質問をすることで他の人の考えに対する理解がより深まり、自分の考えをまとめることにつながっていきます。



話し合いの中で質問をすることによって、発言の意図を確認したり、内容について深く理解したりすることができるね。少人数での話し合いだと、質問もしやすいね。

## ■ 課題の見られた問題について

### 課題の見られた問題の概要

3四 恵那市の平均正答率 **48.9%** (全国：49.3%) 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる問題。

☞設問の詳細はこちらでご確認ください。

[https://www.nier.go.jp/24chousa/pdf/24mondai\\_chuu\\_kokugo.pdf](https://www.nier.go.jp/24chousa/pdf/24mondai_chuu_kokugo.pdf)

問題番号		解答類型	正答	恵那市	県	全国	
(正答の条件) 次の条件を満たして回答している。 ① アに、「あの日から数日が過ぎた。」に適切に続くように、表現を工夫して物語の最後の場面を書いている。 ② イに、アのように表現することで、「僕」の次の出番への期待を伝える上で、どのような効果があるのかを具体的に書いている。							
3	四	1	条件①, ②を満たして解答しているもの	◎	48.9	52.8	49.3
		2	条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの		25.4	23.6	26.2
		3	条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの		1.0	1.2	1.1
		99	上記以外の解答		10.2	8.1	8.4
		0	無解答		14.5	14.3	15.0

## ■ 解答の傾向について

佐藤さんが国語の時間に書いた「身近なものを登場人物にした物語」の最後の場面で、構想をもとにしてア、イの2つの条件を踏まえて物語の最後の場面を書く問題です。アは「『あの日から数日が過ぎた。』に続けて、表現を工夫して書きなさい。」、イは「あなたがアで書いた表現には、どのような効果があるのかを具体的に書きなさい。」という条

件で、両方を満たす必要があります。今回の中学校国語の問題で、恵那市の結果の中で最も無回答率が高かった問題です。

アでは、「表現を工夫する」という条件に合わせて、「次の出番への期待」という心情を、表現技法を用いて書かなければなりません。そして、イでは、アで用いた表現が、表現したい心情を表す上でどのような効果があるのかを書いていきます。誤答の類型を見ると、アは書けているものの、イで自分が用いた表現がどのような効果があるのかを書くことができなかつた誤答が多かつたようです。また、何も書くことができなかつた無回答も約15%あります。

#### ■ 学習指導に当たって

『表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する』

「表現の効果を考えて描写する」とは、語句や表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えながら、より効果的な語句や表現を選んで描写をすることです。自分の理解している表現方法の中から、自分が描きたい場面や状況に合わせてもっともふさわしい表現方法を、意図的に用いることであると言えます。

指導に当たっては、物語を書く学習を行うことが考えられます。物語を書く際には、題材を考えたり、設定やあらすじを考えたりするなど、大まかな全体像を考えてから、細部を書いていくことが多いです。そのような細部を描いていく際に、これまで物語文の読み取りで学んだ表現技法を効果的に使えるとよいです。自分が描きたい場面を書くために、どのような表現技法がもっともふさわしいのかを考えながら書いていくことで、表現技法を的確に使う力が身に付いていくと考えられます。

物語文の読み取りの学習で、表現技法をたくさん習ったね。授業の中では、比喩、倒置法、反復法、情景描写など、いろいろな表現技法と、その効果を考えたね。



今度は自分が表現する立場になった時に、表現したい場面を書く時、どんな表現を使えばいいのか工夫しながら使っていくと、より自分の理解が深まるね。

# 恵那市における中学校数学の結果分析

恵那市教育研究所

## 調査結果

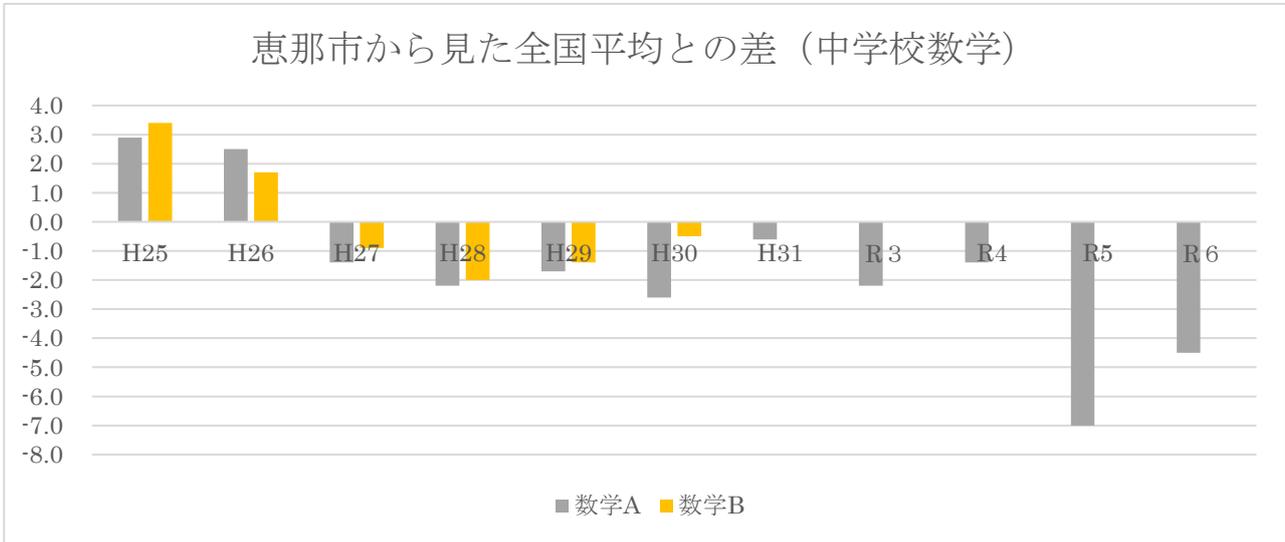
### 平均正答率

- 恵那市 48%
- 県 54%
- 全国 52.5%【恵那市から見た国との差 -4.5】

### 集計結果

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)				県差	国差
			貴教育委員会	岐阜県(公立)	全国(公立)			
全体			48	54	52.5	▲6.0	▲4.5	
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	44.1	52.8	51.1	▲8.7	▲7.0	
	B 図形	3	36.1	43.5	40.3	▲7.4	▲4.2	
	C 関数	4	56.9	62.7	60.7	▲5.8	▲3.8	
	D データの活用	4	52.5	58.3	55.5	▲3.8	▲3.0	
評価の観点	知識・技能	11	58.5	64.5	63.1	▲6.0	▲4.6	
	思考・判断・表現	5	24.5	32.2	29.3	▲7.7	▲4.8	
	主体的に学習に取り組む態度	0						
問題形式	選択式	5	54.8	61.1	58.5	▲6.3	▲3.7	
	短答式	6	61.7	67.3	67.0	▲5.6	▲5.3	
	記述式	5	24.5	32.2	29.3	▲7.7	▲4.8	

### 調査結果の概要



数学において恵那市では、平成27年度から県及び全国平均正答率を下回る結果が続いています。しかし、令和6年度に下回ったポイントは県平均を6.0ポイント、全国平均を4.5ポイントと、全国との差は昨年度より小さくなっています。

学習指導要領の領域別に見ると「A 数と式」の正答率が44.1%で、全国との差は7.0ポイントになり、最も差があります。また、評価の観点においては、「思考・判断・表現」の正答率が24.5%で、県との差は7.7ポイントになり、最も差があります。

## 指導改善のポイント

### ■ 課題の見られた問題について

#### 課題の見られた問題の概要

2

恵那市の  
平均正答率

**42.0%** (全国 : 52.5%)

A 数と式 知識・技能

等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる

等式  $6x + 2y = 1$  を、 $y$  について解きなさい。

☞ 設問の詳細はこちらでご確認ください。

[https://www.nier.go.jp/24chousa/pdf/24mondai\\_chuu\\_suugaku.pdf](https://www.nier.go.jp/24chousa/pdf/24mondai_chuu_suugaku.pdf)

問題番号	解答類型	正答	恵那市	県	全国
1	$-3x + 1/2$ または $(-6x + 1)/2$ と解答している (数学的に同値と判断できるものを含む。以下同様)	◎	42.0	52.6	52.5
2	$-(6x + 1)/2$ と解答しているもの		1.5	2.2	2.5
3	$3x + 1/2$ と解答しているもの		1.3	1.4	1.5
4	$3x - 1/2$ と解答しているもの		0.2	1.1	1.1
5	$-6x + 1/2$ と解答しているもの		0.0	0.2	0.2
6	$-3x + 1$ と解答しているもの		6.6	5.4	5.3
7	$-6x - 1$ と解答しているもの		0.8	0.5	0.5
8	$-6x + 1$ と解答しているもの		1.3	1.0	1.2
9	$-3x$ , $-5x/2$ など $x$ の単項式で解答しているもの		7.4	6.0	5.2
10	$1/2$ などの数値を解答しているもの		13.5	9.2	8.8
99	上記以外の解答		12.0	10.6	11.5
0	無回答		13.5	9.9	9.7

### ■ 解答の傾向について

「A 式と計算」領域で正答率が 42.0%である2は、全国平均との差が 10.5 ポイント、県平均との差が 10.6 ポイントです。今回の調査において全国平均との差が最も大きい問題です。

等式の性質を基に、与えられた条件にあうように式変形をする問題です。誤答率の高い解答を見ると、解答類型において、「 $y = -3x + 1$ 」と答えているものが 6.6%であり、数値を答えているものが 13.5%、解答類型以外のものが 12.0%、無回答が 13.5%です。

「 $y$  について解く」ことや等式の性質についての理解が十分でないことが考えられます。

### ■ 学習指導に当たって

ある文字について解くことの意味を理解し、等式の性質などの根拠に基づいて等式を変形できるように指導することが大切です。授業においては、 $y$  について解くことは、 $y = \square$  の形に変形することであると確認する場面を設定することが大切です。また、「 $2y = -6x + 1$ 」からの式変形に誤答が多い「 $y = -3x + 1$ 」などを取り上げ、何が間違っ

ているのかを説明する場を位置付けることで、等式の性質や計算の仕方についての理解が深まります。

方程式を解く問題に比べて「 $y$ について解きなさい。」という問題の正答率が低い傾向にあります。方程式の「 $x$ について解く」とつなげて、「 $y$ について解くとは、 $y =$  の形にすること」といったように生徒が数学の用語を整理しながら、まとめられるようにすることが大切です。

また、性質を理解するには、正しい処理の仕方を知るだけでなく、誤答を基に、何が間違っているのかを考える学習は有効です。今回の問題のように

$$2y = -6x + 1$$

$$y = -3x + 1$$

といった分配法則を用いた誤答は大変多いため、各学年で確認することが大切です。

### 指導改善のポイント

#### ■ 課題の見られた問題について

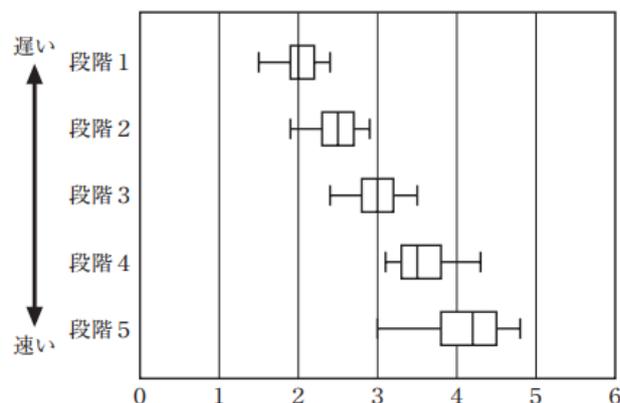
#### 課題の見られた問題の概要

7 (2) 恵那市の平均正答率 **4.5%** (全国：9.5%)

D データの活用 思考・判断・表現

複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる

10cmの位置から進んだ距離の分布から、「林が段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、10cmの位置から進んだ距離の分布の5つの箱ひげ図を比較して説明します。



	10 cm の位置から進んだ距離 (cm)				
	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
段階1	1.5	1.9	2.0	2.2	2.4
段階2	1.9	2.3	2.5	2.7	2.9
段階3	2.4	2.8	3.0	3.2	3.5
段階4	3.1	3.3	3.5	3.8	4.3
段階5	3.0	3.8	4.2	4.5	4.8

(正答の条件) 次の (a) または (b) について記述しているもの (a) 箱ひげ図の箱がだんだんと右側にずれていっていること。 (b) 第1四分位数と第3四分位数がだんだんと大きくなっていること。						
問題番号	解答類型		正答	恵那市	県	全国
7 (2)	1	(a) について記述しているもの	◎	2.0	6.1	5.2
	2	(b) について記述しているもの	◎	2.5	4.5	4.3
	3	上記2以外で、四分位数のいずれかの値がだんだんと大きくなっていることについて記述しているもの	○	17.8	16.7	16.5
	4	箱ひげ図全体が右側にずれていっていることについて記述しているもの		1.3	5.9	4.3
	5	上記1～4以外で、最大値がだんだんと大きくなっていることについて記述しているもの		3.8	3.3	3.8
	6	箱ひげ図の箱の長さやひげの長さについて記述しているもの		6.1	8.6	7.6
	7	上記以外で箱ひげ図から読み取れることを記述しているもの		7.4	6.6	6.2
	8	箱ひげ図の読み取りを誤って記述しているもの		8.4	8.3	8.1
	99	上記以外の解答		20.4	14.2	14.6
	0	無回答		30.3	25.8	29.4

### ■ 解答の傾向について

「思考・判断・表現」の観点で正答率が4.5%である $\boxed{7}$ (2)は、全国平均との差が5.0ポイント、県平均との差が6.1ポイントです。今回の調査問題の中で、最も正答率の低かった問題です。

車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する」問題です。

誤答としてだんだん大きくなっていることは記述できていますが、四分位数など箱ひげ図の用語を正しく利用できていないものが17.8%でした。また、箱ひげ図の読み取りが間違っているものが8.4%、回答類型以外の解答が20.4%、無回答のものが30.3%と、箱ひげ図についての理解が不十分であることが誤答の要因として考えられます。

### ■ 学習指導に当たって

まず、箱ひげ図の用語についてその意味と図をつなげて理解することが大切です。また、箱ひげ図のよさについても取り上げ、どのような場面で利用することが有効であるかを考える学習も大切になります。

これまでも様々なグラフを用いて情報を整理し説明する問題が多く出題されていますが、今回のように複数の箱ひげ図を用いて説明する問題はあまり出題されてきませんでした。そこで、データの活用の学習においては、1つのデータだけでなく、複数のデータから傾向を比較して読み取る学習を位置付けることも大切です。その際、データを基にグラフや箱ひげ図に表し、その傾向を説明するだけでなく、複数のグラフや箱ひげ図から、データの傾向を読み取り、根拠を明確にして傾向を説明する学習を位置付けることが大切です。

## 〈主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況〉

### 〔児童生徒質問紙の経年変化〕

#### 【小学校】

- 「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」という質問に、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している児童の割合は、年々増加し71.8%と昨年度に比べて6.1ポイント増えています。これは全国平均と比べて4.2ポイント、県平均と比べて3.4ポイント上回っています。(29)
- 「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している児童の割合は増加傾向にあり、昨年と比べて7.2ポイント高くなって84.4%になっています。これは全国平均と比べて2.7ポイント、県平均と比べて1.3ポイント上回っています。(30)
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している児童の割合は増加傾向にあり、昨年と比べて9.6ポイント高くなって88.1%になっています。これは全国平均と比べて2.8ポイント、県平均と比べて1.2ポイント上回っています。(33) ※一部質問事項の文言が変更されています。

#### 【中学校】

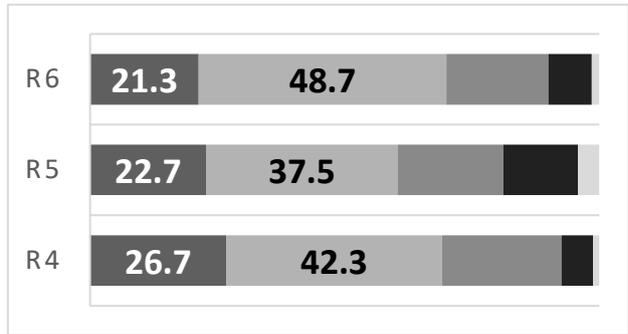
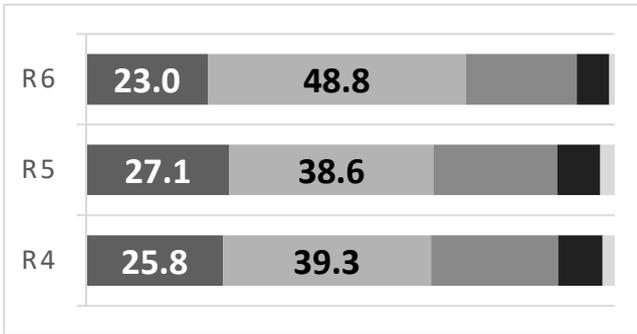
- 「1, 2年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」という質問に、「当てはまる」「どちらか」という回答している生徒の割合は70.0%と昨年度に比べて9.8ポイント増え、一昨年度と同じ水準になっています。これは全国平均と比べて5.2ポイント、県平均と比べて1.9ポイント上回っています。(29)
- 「1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」という質問に「当てはまる」「どちらか」と回答している生徒の割合は、昨年度、大きな低下が見られました。しかし、今年度は83.9%と増加しています。これは全国平均と比べて3.6ポイント上回っていますが、県平均と比べると1.8ポイント下回っています。(30)
- 「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると思いますか」という質問に「当てはまる」「どちらか」と回答している生徒は、昨年度は低下しましたが、今年度は90.3%と一昨年度よりも増加しています。これは全国平均と比べて4.2ポイント、県平均と比べて1.9ポイント上回っています。(33) ※一部質問事項の文言が変更されています。

■ 当てはまる	■ どちらかといえば、当てはまる	■ どちらかといえば、当てはまらない
■ 当てはまらない	■ その他	■ 無回答

	質問番号	質問事項
小	29	5年生まで〔1, 2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか
中	29	

【小学校】

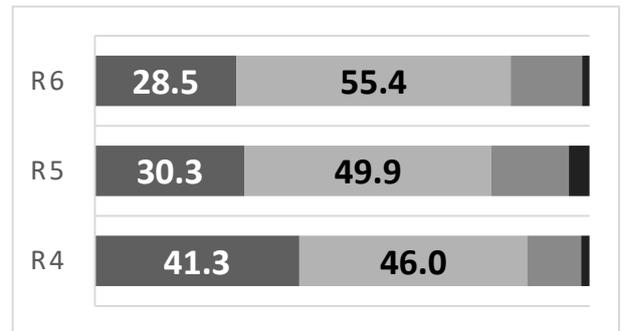
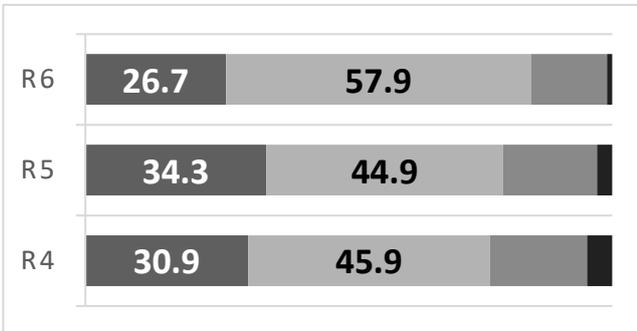
【中学校】



	質問番号	質問事項
小	30	5年生まで〔1, 2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか
中	30	

【小学校】

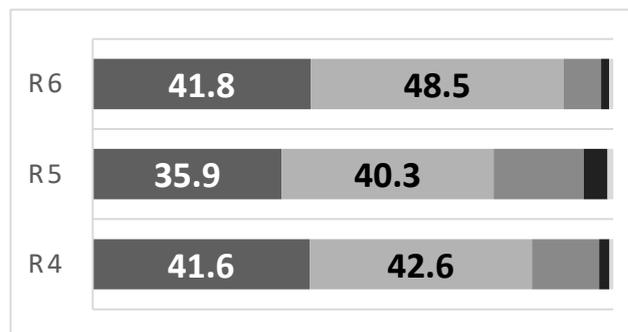
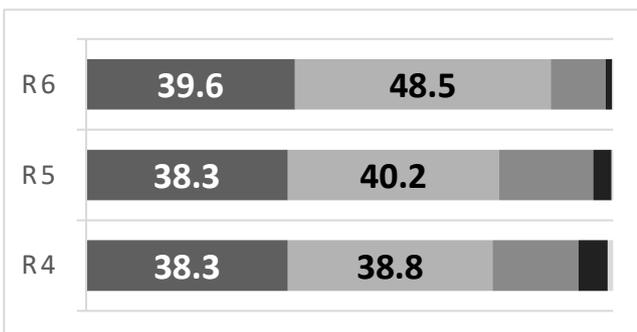
【中学校】



	質問番号	質問事項
小	33	学級の友達と〔生徒〕の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると思いますか
中	33	

【小学校】

【中学校】



## 〈個別最適な学びの視点からの授業改善に関する取組状況〉

### 【児童生徒質問紙の経年変化】

#### 【小学校】

- 「5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」という質問に、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は、年々増加し88.7%と昨年度に比べて4.7ポイント増えています。これは全国平均と比べて4.4ポイント、県平均と比べて2.6ポイント上回っています。(32)
- 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は、昨年度は低下しましたが、今年度は一昨年度よりも増加し79.2%になっています。しかし、全国平均と比べて1.6ポイント、県平均と比べて2.3ポイント下回っています。(34)
- 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は昨年と比べて4.3ポイント低くなって90.3%になっています。しかし、全国平均と比べて2.4ポイント、県平均と比べて2.5ポイント上回っています。(36)

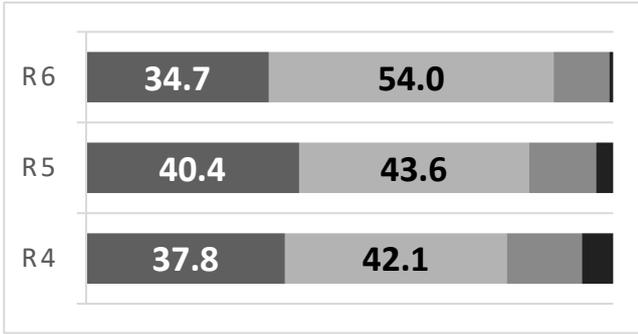
#### 【中学校】

- 「1, 2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」という質問に、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は、昨年度は低下しましたが、今年度は81.6%と、昨年度に比べて5.9ポイント増えています。これは全国平均と比べて0.7ポイント上回っていますが、県平均と比べて1.6ポイント下回っています。(32)
- 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は、昨年度は低下しましたが、今年度は昨年度よりも増加し77.2%になっています。しかし、全国平均と比べて0.7ポイント、県平均と比べて3.4ポイント下回っています。(34)
- 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している生徒の割合は昨年と比べて5.5ポイント低くなって86.9%になっています。これは、全国平均と比べて2ポイント上回っていますが、県平均と比べて0.2ポイント下回っています。(36)

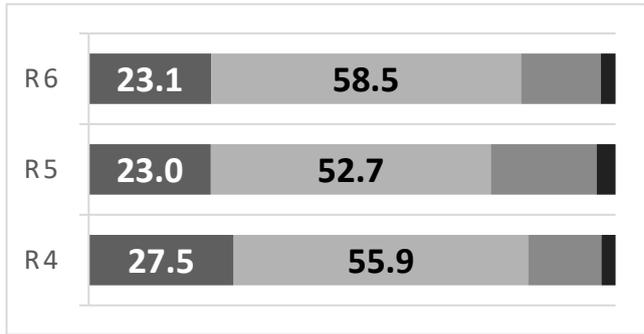
■ 当てはまる	■ どちらかといえば、当てはまる	■ どちらかといえば、当てはまらない
■ 当てはまらない	■ その他	■ 無回答

	質問番号	質問事項
小	3 2	5年生までに（1、2年生のときに）受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか
中	3 2	

【小学校】

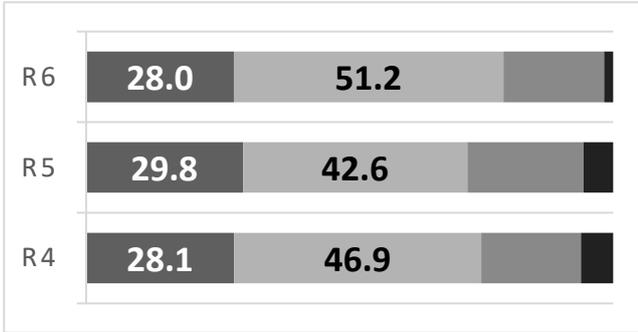


【中学校】

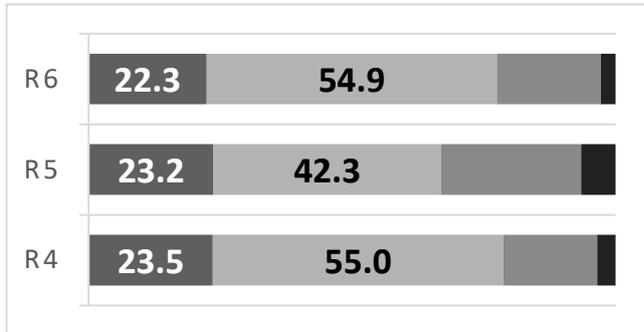


	質問番号	質問事項
小	3 4	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか
中	3 4	

【小学校】

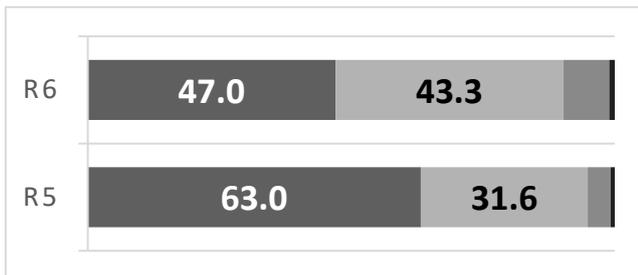


【中学校】

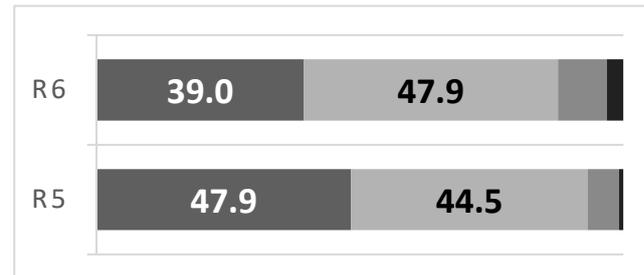


	質問番号	質問事項
小	3 6	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか
中	3 6	

【小学校】



【中学校】



## 〈自己有用感〉

### 〔児童生徒質問紙の経年変化〕

#### 【小学校】

- 「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対し、今年度は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は昨年度と比べ増加し83.4%になっています。ここ数年の中で最も高い割合です。しかし、全国平均と比べて0.7ポイント、県平均と比べて1.7ポイント低い状況です。ただし、全国平均・県平均との差は小さくなってきています。(9)
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に対し、今年度は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は昨年度と比べ増加しています。ここ数年の中で最も高い割合です。また、全国平均と比べて2.2ポイント、県平均と比べて1.6ポイント高くなっています。(10)

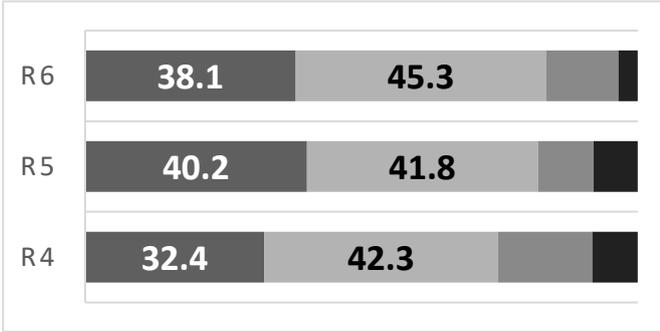
#### 【中学校】

- 「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対し、今年度は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は昨年度と比べ増加し、85.6%になっています。ここ数年の中で最も高い割合です。また、全国平均と比べて2.6ポイント、県平均と比べて1.1ポイント高くなっています。(9)
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は、昨年度と比べ増加し91%になっています。ここ数年の中で最も高い割合です。全国平均と比べて0.6ポイント上回っていますが、県平均と比べると1.5ポイント下回っています。(10)

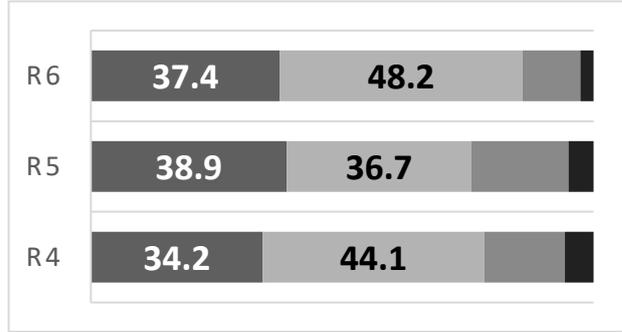
■ 当てはまる	■ どちらかといえば、当てはまる	■ どちらかといえば、当てはまらない
■ 当てはまらない	■ その他	■ 無回答

	質問番号	質問事項
小	9	自分には、よいところがあると思いますか
中	9	

【小学校】

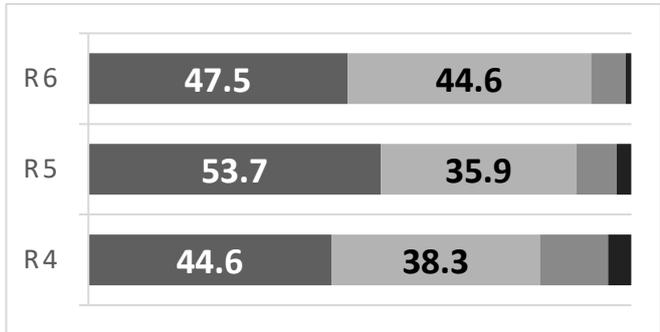


【中学校】

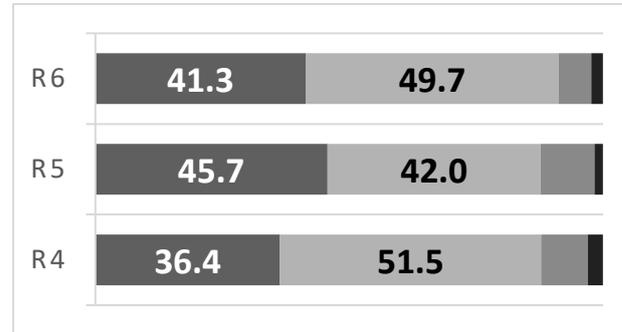


	質問番号	質問事項
小	10	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
中	10	

【小学校】



【中学校】



## 〈「社会性」等に関わる状況〉

### 【児童生徒質問紙の経年変化】

#### 【小学校】

- 「人が困っているときは、進んで助けていますか」という質問に、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している児童の割合は年々増加傾向にあり、93.8%になっています。しかも、全国平均と比較して1.1ポイント高く、県平均と比較しても同じ値になっています。(12)
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している児童の割合は98.5%と95%以上の高い水準を維持しています。しかも、全国平均と比較して1.8ポイント、県平均と比較して1.1ポイント上回っています。(13)

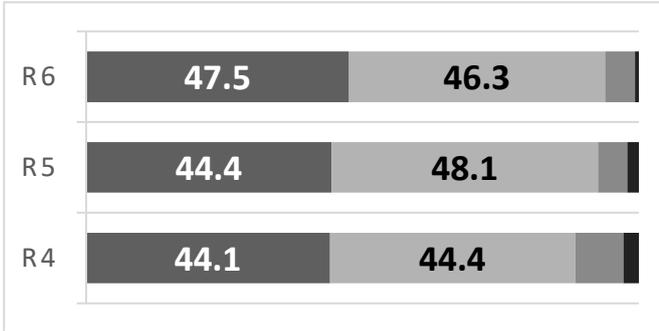
#### 【中学校】

- 「人が困っているときは、進んで助けていますか」という質問に、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している生徒の割合は91.3%と、ここ数年では一番高い値となっています。これは、全国平均と比較して1.2ポイント上回っていますが、県平均と比較すると0.5ポイント下回っています。(12)
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している生徒の割合は97.7%と95%以上の高い水準を維持しています。しかも、全国平均と比較して2ポイント、県平均と比較して1.2ポイント上回っています。(13)

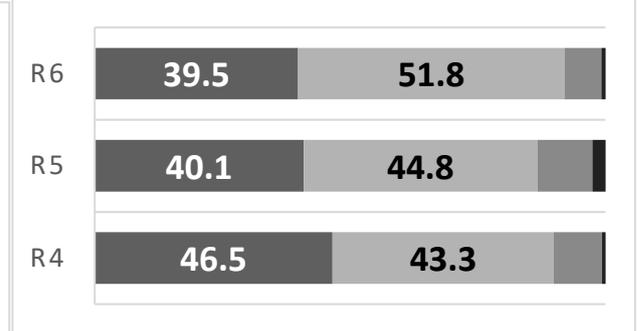
- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない
- その他
- 無回答

	質問番号	質問事項
小	1 2	人が困っているときは、進んで助けていますか
中	1 2	

【小学校】

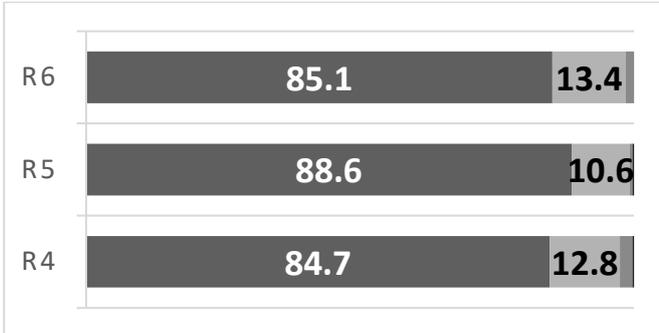


【中学校】

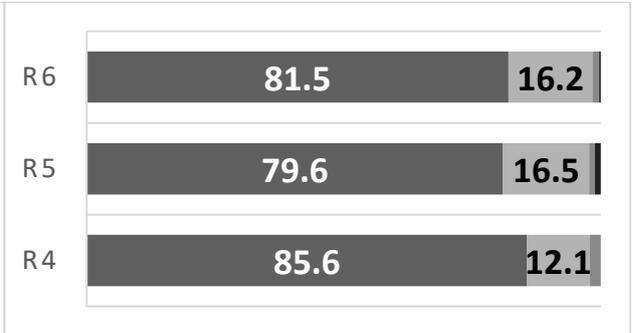


	質問番号	質問事項
小	1 3	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
中	1 3	

【小学校】



【中学校】



## 〈「郷土愛」等に関わる状況〉

[児童生徒質問紙の経年変化]

### 【小学校】

- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は、年々増加傾向にあり、84.4%になっています。これは、全国平均と比較して0.9ポイント上回っていますが、県平均と比較すると0.2ポイント下回っています。(25)

### 【中学校】

- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は、年々増加傾向にあり、73.3%になっています。しかし、全国平均と比較して2.8ポイント、県平均と比較して5.5ポイント下回っています。(25)

■ 当てはまる	■ どちらかといえば、当てはまる	■ どちらかといえば、当てはまらない
■ 当てはまらない	■ その他	■ 無回答

	質問番号	質問事項
小	25	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
中	25	

【小学校】

【中学校】



※令和4年度までの設問は「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」

## 〈「主体性」等に関わる状況〉

### 〔児童生徒質問紙の経年変化〕

#### 【小学校】

- 「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は、78.9%と昨年度と大きな変化はありませんでした。これは、全国平均と比較して3.5ポイント、県平均と比較して2.3ポイント下回っています。(11)
- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は96.8%と95%以上の高い水準となっています。これは、全国平均と比較して0.9ポイント、県平均と比較して1ポイント上回っています。(15)

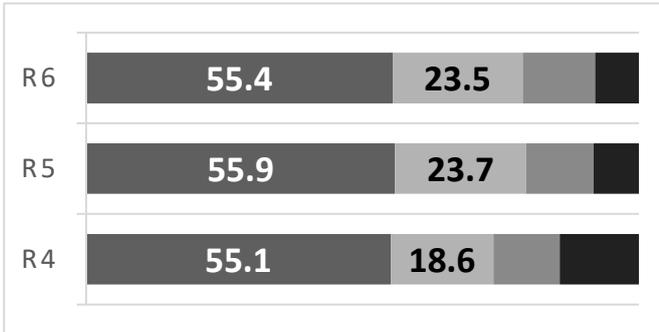
#### 【中学校】

- 「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は、67.5%と、年々増加傾向にあります。これは、全国平均と比較して1.2ポイント、県平均と比較して0.7ポイント上回っています。(11)
- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は96.1%と95%以上の高い水準となっています。これは、全国平均と比較して0.9ポイント、県平均と比較して0.4ポイント上回っています。(15)

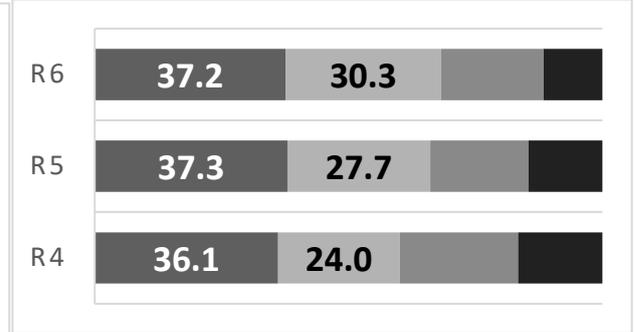
■ 当てはまる	■ どちらかといえば、当てはまる	■ どちらかといえば、当てはまらない
■ 当てはまらない	■ その他	■ 無回答

	質問番号	質問事項
小	1 1	将来の夢や目標を持っていますか
中	1 1	

【小学校】

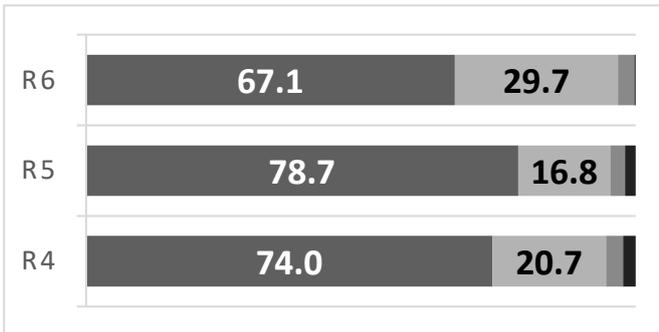


【中学校】

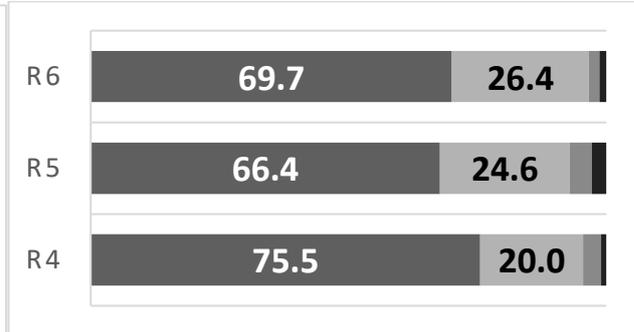


	質問番号	質問事項
小	1 5	人の役に立つ人間になりたいと思いますか
中	1 5	

【小学校】



【中学校】



## 〈ICTを活用した学習状況〉

### 〔児童生徒質問紙の経年変化〕

#### 【小学校】

- 「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」という質問に対し、「ほぼ毎日」と回答している児童の割合は、56.9%と昨年度と比べて減少しました。しかし、全国平均と比較して31.6ポイント、県平均と比較して25.4ポイント上回り、高い水準を維持しています。(27)

#### 【中学校】

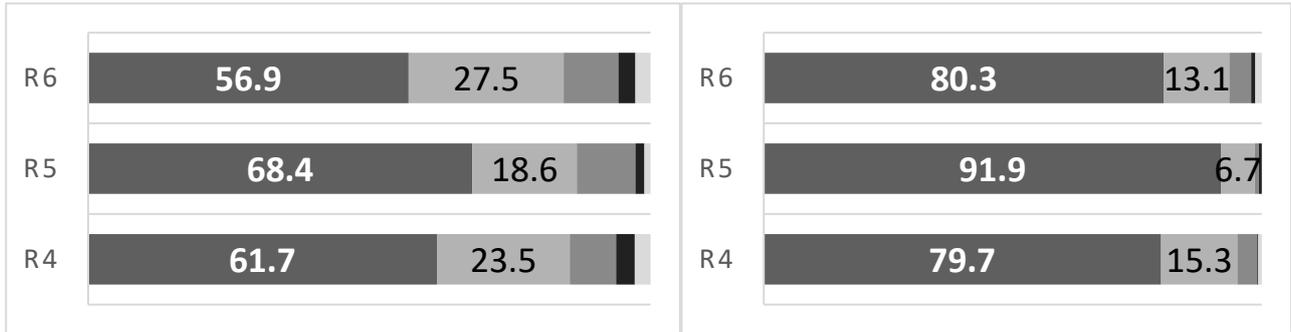
- 「1, 2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」という質問に対し、「ほぼ毎日」と回答している生徒の割合は、80.3%と昨年度と比べて減少しました。しかし、全国平均と比較して48.7ポイント、県平均と比較して29.7ポイント上回り、高い水準を維持しています。(27)

	質問番号	質問事項
小	27	5年生まで〔1, 2年生のとき〕に受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか。
中	27	

**【小学校】**

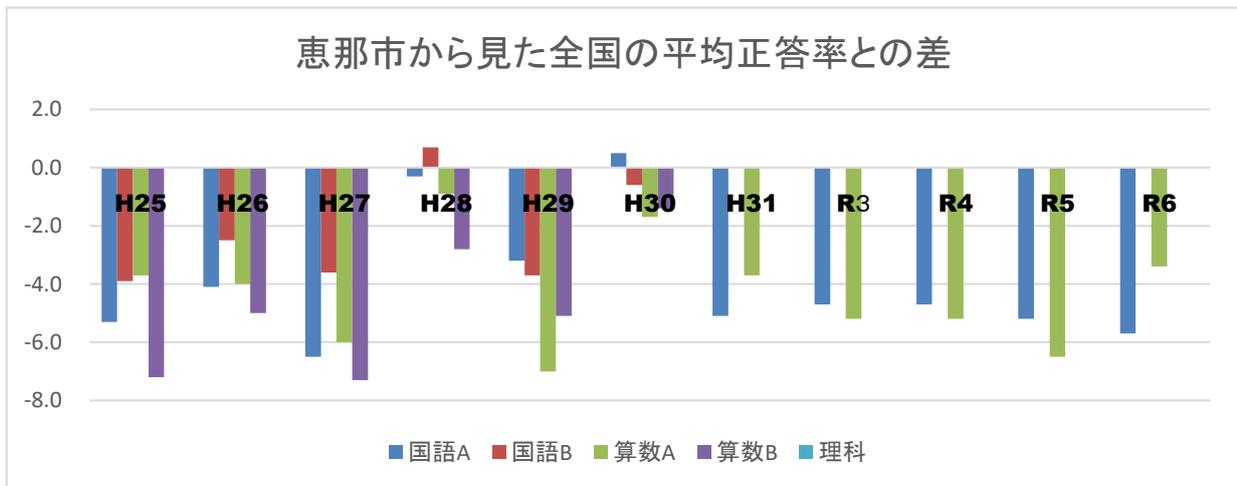
**【中学校】**

■ ほぼ毎日 ■ 週3日以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回以下



		国 A	国 B	算 A	算 B	理
R6	恵那市(全体)	62		60		
	岐阜県(公立)	65		61		
	全国(公立)	67.7		63.4		
R5	恵那市(全体)	62		56		
	岐阜県(公立)	65		60		
	全国(公立)	67.2		62.5		
R4	恵那市(全体)	58		56		59
	岐阜県(公立)	64		61		63
	全国(公立)	65.6		63.2		63.3
R3	恵那市(全体)	60		65		
	岐阜県(公立)	63		69		
	全国(公立)	64.7		70.2		
H31	恵那市(全体)	58.7		62.9		
	岐阜県(公立)	62.6		65.3		
	全国(公立)	63.8		66.6		
H30	恵那市(全体)	71.2	54.1	61.8	50.1	62.0
	岐阜県(公立)	71.6	55.6	63.0	51.5	61.0
	全国(公立)	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3
H29	恵那市(全体)	71.6	53.8	71.6	40.8	
	岐阜県(公立)	74.5	57.8	77.2	44.6	
	全国(公立)	74.8	57.5	78.6	45.9	
H28	恵那市(全体)	72.6	58.5	76.7	44.4	
	岐阜県(公立)	73.0	58.8	77.2	46.7	
	全国(公立)	72.9	57.8	77.6	47.2	
H27	恵那市(全体)	63.5	61.8	69.2	37.7	56.1
	岐阜県(公立)	67.8	65.9	73.8	43.6	60.8
	全国(公立)	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8
H26	恵那市(全体)	68.8	53.0	74.1	53.2	
	岐阜県(公立)	70.2	54.8	76.9	56.9	
	全国(公立)	72.9	55.5	78.1	58.2	
H25	恵那市(全体)	57.4	45.5	73.5	51.2	
	岐阜県(公立)	61.3	49.1	76.2	56.0	
	全国(公立)	62.7	49.4	77.2	58.4	

全国平均より高い:青 全国平均より低い:赤



令和6年度 全国学力・学習状況調査

中学校

		国 A	国 B	数 A	数 B	理科	英語	英語(話すこと)
R6	恵那市(全体)	55		48				
	岐阜県(公立)	60		54				
	全国(公立)	58.1		52.5				
R5	恵那市(全体)	64		44			40	11
	岐阜県(公立)	71		53			48	公表なし
	全国(公立)	69.8		51.0			45.6	12.4
R4	恵那市(全体)	69		50		49		
	岐阜県(公立)	70		53		52		
	全国(公立)	69.0		51.4		49.3		
R3	恵那市(全体)	64		55				
	岐阜県(公立)	65		59				
	全国(公立)	64.6		57.2				
H31	恵那市(全体)	73.3		59.2			53.3	
	岐阜県(公立)	75.2		61.3			57.3	
	全国(公立)	72.8		59.8			56.0	
H30	恵那市(全体)	75.3	62.8	63.5	46.4	67.0		
	岐阜県(公立)	75.9	62.2	67.3	49.0	68.0		
	全国(公立)	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1		
H29	恵那市(全体)	77.7	73.0	62.9	46.7			
	岐阜県(公立)	79.0	73.8	65.9	49.8			
	全国(公立)	77.4	72.2	64.6	48.1			
H28	恵那市(全体)	75.7	69.2	60.0	42.1			
	岐阜県(公立)	75.8	69.1	63.5	46.2			
	全国(公立)	75.6	66.5	62.2	44.1			
H27	恵那市(全体)	75.5	67.3	63.0	40.7	54.3		
	岐阜県(公立)	76.4	68.3	65.7	44.2	56.8		
	全国(公立)	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0		
H26	恵那市(全体)	80.3	52.4	69.9	61.5			
	岐阜県(公立)	79.8	52.0	69.8	61.3			
	全国(公立)	79.4	51.0	67.4	59.8			
H25	恵那市(全体)	78.7	73.2	66.6	44.9			
	岐阜県(公立)	77.1	70.2	66.6	45.7			
	全国(公立)	76.4	67.4	63.7	41.5			

全国平均より高い: 青 全国平均より低い: 赤

